

2 PET ボトルリサイクル推進協議会

リデュースへの取り組み成果 2017 年度軽量化 23.9%

2017 年度の PET ボトル軽量化は、全体では、削減効果量で 181 千トン、軽量化率 23.9%を達成いたしました。



図 1. 容器軽量化による削減効果量と軽量化率の推移

図 2 に指定 PET ボトル・主要 17 種の 2020 年度軽量化目標値と 2017 年度の実績を示しました。第 3 次自主行動計画 2 年目の 2017 年度実績では、対象容器の主要 17 種のうち 11 種で昨年度比軽量化が進み、また 5 種で、2020 年度軽量化目標値を達成しました。

今後も、さらなる軽量化に向けて努力を続けていきます。

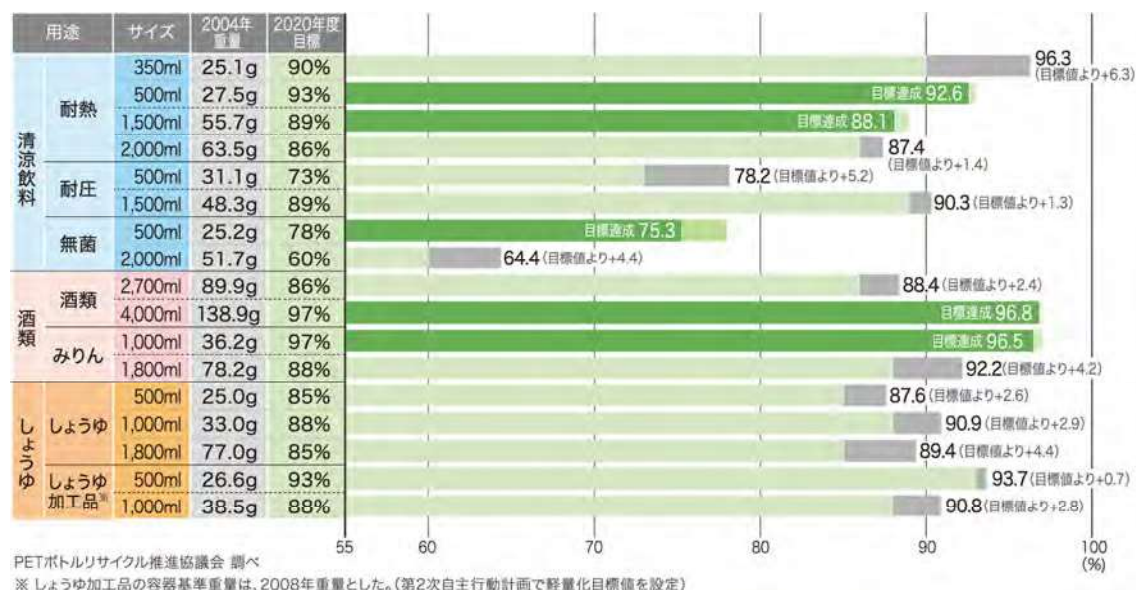


図 2. 指定 PET ボトル・主要 17 種の軽量化目標と実績 (2017 年度)

●軽量化事例

PETボトルは、容器としての需要の広がりにとともに、成形技術・充填技術の進展などにより、近年目覚ましい軽量化が実施されました。



〈軽量化事例〉

●環境負荷増大の抑制について

図3に清涼飲料用PETボトルの出荷本数と、その原油採掘からボトル製造・供給に至る環境負荷の指標としてCO₂排出量を経年で示しました。

PETボトルは、需要の伸びにとともに出荷本数を増加させてきましたが、3R推進のための自主行動計画を定めて取り組みを開始した2004年度以降は、出荷本数の増大に比べCO₂排出量の増大が抑制されているといえます(表1)。

これは、ボトルの軽量化をはじめとする省資源・省エネルギーの取り組みの効果が表れたものと考えます。

表1. 2017年度と基準年度(2004年度)との環境負荷(CO₂排出量)比較

		2004年度	2017年度	2017/2004比
PETボトル出荷本数	億本	148	227	1.54倍
環境負荷(CO ₂ 排出量)	千トン-CO ₂	2,089	2,167	1.04倍



図3. 清涼飲料用PETボトルの出荷本数と、その環境負荷(CO₂排出量)の推移

リサイクルへの取り組み 2017 年度リサイクル率 84.8%

2017 年度のリサイクル率の「分母」となる指定 P E T ボトル販売量（総重量）は 587 千トンで、前年度比 9 千トン減となりました。国内の指定 P E T ボトルの販売本数は 2017 年度 236 億本で昨年比 0.3% の伸びでした。

一方、リサイクル率の「分子」となるリサイクル量は国内再資源化量 298 千トン、海外再資源化量 201 千トンで、合計では前年度比 2 千トン減の 498 千トンとなりました。その結果、リサイクル率は 84.8% となり、前年度比 0.9 ポイントの増加となりました。

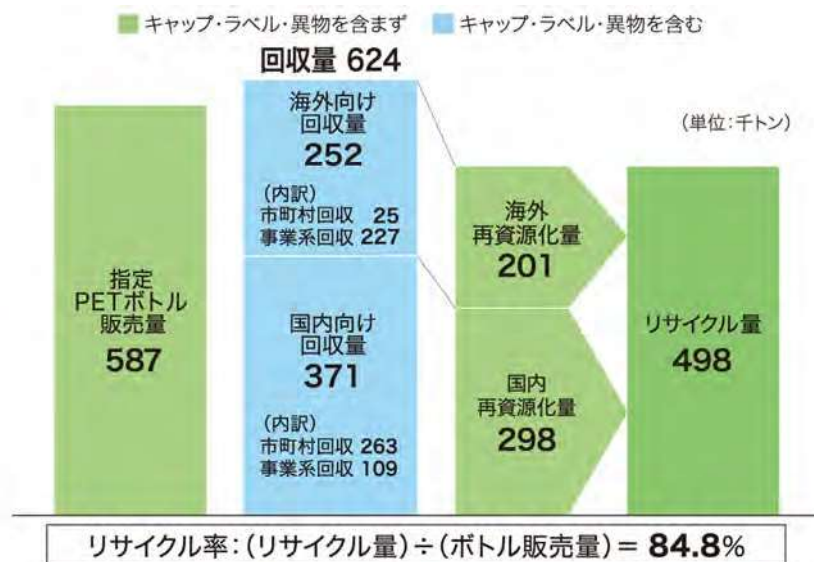


図 4. 回収・リサイクルの概要

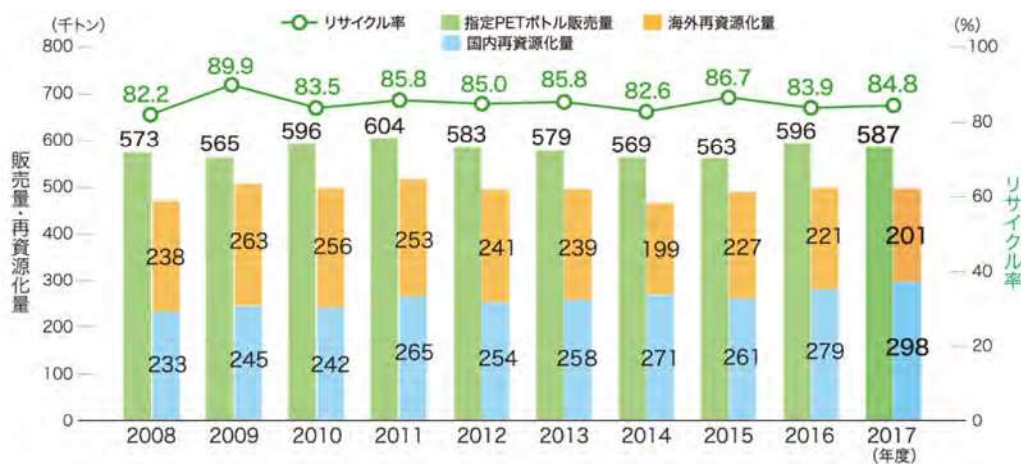


図 5. 国内再資源化と海外再資源化

●回収・リサイクルに関する推進協議会調査の強化

回収量調査にあたって、市町村回収については、環境省発表速報データを使用するとともに、使用済み P E T ボトルの回収、再商品化を行う事業者へのアンケート調査を行い、国内リサイクル向けの回収量を集計しています。

また、輸出货量調査にあたって、使用済み P E T ボトルについては、2015 年 1 月より新設された財務省貿易統計の「P E T くずフレイク状のもの（統計品目番号 391590110）」の実数を使用し、バール輸出については、バーゼル法関連事前相談業務の集計結果における（一財）日本環境衛生センターの

PETスクラップ輸出量「ボトルプレス品」の値を使用しています。また、PETくず輸出事業者へのアンケート調査を行い、輸出量を集計しています。

把握できていない使用済みPETボトルの取り扱い事業者がいることから、毎年継続的に調査ヒヤリングを強化していますが、特に事業系回収量調査のアンケート回答率が、まだ十分に高いとはいえず、引き続き捕捉向上、精度アップのための活動を続けていきます。

推進協議会では3R推進のため、2016年度からの第3次自主行動計画の中で、「リサイクル率85%以上の維持」を目標として掲げており、推進・啓発活動を実施し、引き続き達成に努めます。

●国内での具体的製品別再生PET樹脂利用量を調査

回収されたPETボトルが、国内で具体的に何にどれだけ再利用されているかを、2008年より継続して調査しています。各用途別の調査量を、PETボトル（BtoB）、シート、繊維、成形品、その他の製品形態群でくくり、2017年度の利用量とともに表2に示しました。

2017年度調査では、BtoBによる指定PETボトルへの利用が61.3千トンと、前年度比で3.8千トンの利用増となり、6.7%伸びました。循環型リサイクルであるPETボトル用途へのさらなる伸長が見込まれます。シート用途でも食品用トレイが牽引して117.5千トンと対前年度比で7.1千トン増加し、6.4%伸びました。繊維用途の利用量は63.3千トンと、対前年比で2.5千トンの減少、3.8%低下となりました。しかし、引き続きPETボトル、シートとともに再生PET樹脂の主要な用途となっています。

表2. 2017年度具体的製品例と利用量（調査結果）

（単位：千トン）

製品例		2016 利用量	2017 利用量	構成比
PETボトル(ボトルtoボトルによる指定PETボトル)		57.5	61.3	24.6%
シート	食品用トレイ(卵パック、青果物トレイなど)	79.6	82.7	
	ブリスターパック(日用品などブリスター包装用)	11.1	11.9	
	食品用中仕切り(カップ麺トレイ、中仕切りなど)	6.9	7.1	
	その他(工業用トレイ、文具・事務用品など)	12.9	15.9	
		110.4	117.5	47.2%
繊維	自動車・鉄道関連(天井材や床材など内装材、吸音材)	28.7	21.1	
	衣類(ユニフォーム、スポーツウェアなど)	12.7	11.9	
	インテリア・寝装具(カーペット類、カーテン、布団など)	13.4	11.6	
	家庭用品(水切り袋、ワイパーなど)	3.5	10.4	
	土木・建築資材(遮水・防草・吸音シートなど)	5.0	6.8	
	身の回り品(エプロン、帽子、ネクタイ、作業手袋など)	1.2	0.6	
	一般資材(テント、のぼり、防球ネットなど)	0.3	0.2	
	その他(糸、不織布など)	1.0	0.7	
		65.8	63.3	25.4%
成形品	一般資材(結束バンド、回収ボックス、搬送ケースなど)	0.8	2.6	
	土木・建築資材(排水管、排水枡、建築用材など)	1.7	0.3	
	その他(文房具、事務用品、園芸用品、ごみ袋、衣料関連など)	3.0	3.8	
		5.4	6.6	2.7%
他	その他(添加材、塗料用、フィルムなど)	0.2	0.2	0.1%
合計		239.2	249.0	100%

※端数処理のため、数値が合わない場合があります。

広報活動の推進～啓発ツールの提供

●年次報告書の発行

2001 年以來毎年発刊しており、3 R（リデュース、リユース、リサイクル）について 3 R 推進自主行動計画にそって業界をあげて真摯に取り組んでいる状況や、その成果を多くの皆さまに知っていただくことを目的としています。2018 年 11 月 21 日に、記者説明会を開催しております。



●広報誌「RING」

広報誌「RING」は 2013 年度から年 1 回の発刊となり、新たにメールニュースを年 4 回配信しておりますが、2017 年度も継続し情報提供を行いました。

2017 年度は「RING」Vol.36 の発刊に向け、特別対談として東京都知事小池百合子氏に「環境先進都市・東京へー持続可能な世界をめざしてー」をテーマにインタビューを行いました。また、「資源循環型社会形成を目指して」をテーマに市町村紹介として島根県松江市、京都府京都市の取り組みを、再商品化事業者紹介として（株）エフピコを、会員企業訪問として（株）伊藤園を、再生樹脂利用事業者紹介として（株）アクティブライフ取材しました。



「RING」Vol.36（6 月発行）

●啓発ツールの提供

小学生環境教育用に作成した啓発動画「クイズで学ぼう!! PET ボトルリサイクル」が好評で、2017 年 6 月の環境月間には、推進協議会のホームページへのアクセス数が 30 万件を突破し月間新記録を達成しました。また、小冊子「だいすき PET ボトル」、ポスター等を全国のリサイクルプラザ等に提供しています。

2 年に 1 度冊子で更新していた「PET ボトル再利用品カタログ」を Web カタログ化し、常時更新可能としました（2017 年 10 月 17 日）。

